DigeYST（ダイジェイスト）製品仕様書

対象読者　代理店・販売パートナー
版数　v4（2026年11月改訂）　2026年11月26日

本書は、DigeYSTの主な機能、導入要件、機器仕様および運用上の制限をまとめたものです。導入先への製品説明と事前確認にご利用ください。

目次

1. 製品概要 1
2. 主な機能 2
3. 導入要件 3
4. 標準機器仕様 4
5. セキュリティおよびデータ管理 5
6. 導入前確認事項 6
7. 制限事項 7
8. 保守・運用 7

1. 製品概要

DigeYSTは、通話録音の文字起こしと要約を自動で行うオンプレミス型システムです。CrosCoreが保存した通話録音のコピーをFTPで受信します。録音の原本はCrosCoreに残り、文字起こしと要約は導入先のDigeYST内で処理されます。

項目	内容
設置形態	オンプレミス（導入先に専用機を設置）
提供形式	専用ハードウェアおよびソフトウェア一式
標準接続先	3.1項の条件を満たすCrosCore
利用方法	社内LANまたは専用の独立ネットワーク上のPC・タブレットのWebブラウザーから利用
データの保管場所	導入先のDigeYST内。外部サービスに連携する場合は2.4項を参照

2. 主な機能

2.1 自動文字起こし

CrosCoreのボイスメールに保存された対象の録音を自動で受信し、文字起こしします。電話回線の音声特性（狭帯域・モノラル）に応じた音量補正を行います。

2.2 AI要約

項目	内容
要約	通話内容の要点
通話相手・個人名	共通電話帳の登録名、会社名、電話番号の順で通話相手を表示。AIは会社名や個人名の手掛かりを会話から抽出
対応者	最後に応対した内線の名称が取得できればその名称を使用。取得できない場合は登録済みのスタッフ名と会話から判断
用件・TODO	通話から抽出した対応事項
要対応フラグ	折り返し等の対応の要否

2.3 Web画面

- 通話一覧では、電話番号や文字起こし・要約に含まれるキーワードを検索できます。「開始日」「終了日」の一方または両方を指定して通話日で絞り込めます。キーワード検索と併用できます。
- 通話詳細では、要約や文字起こし全文の閲覧、保存期間内の録音の再生ができます。対応ブラウザーの保存機能で、録音を1件ずつ保存できます。
- 要約とその項目は画面上で修正でき、変更履歴が残ります。連絡先画面からCrosCoreの共通電話帳を登録・編集できます。

2.4 外部サービス連携（オプション）

連携先	設定後の自動登録
kintone	指定したアプリに通話記録をレコード登録
Google スプレッドシート	指定したスプレッドシートの左端のシートのA〜I列に1通話1行で書き込み

外部サービスに連携する場合は、連携先への通信を許可し、連携設定を行います。送信するのは通話日時、電話番号や要約などの通話記録です。録音音声はDigeYST内で処理します。

Google連携では、Google Sheets APIを有効にしたGoogle Cloudプロジェクトと、サービスアカウントのJSON鍵が必要です。書き込み先をサービスアカウントに「編集者」で共有し、管理者がDigeYSTの「システム設定」の「Google」でJSON鍵とスプレッドシートIDを登録して接続テストを行います。

2.5 保存・バックアップ

DigeYSTの標準保存期間は、録音音声が90日、文字起こし・要約などの通話記録が730日です。音声は通常、処理完了日時を基準とし、通話記録は通話日時を基準とします。基準の日時を取得できない場合は登録日時を使います。USBバックアップの対象と復元条件は8章を参照してください。

3. 導入要件

3.1 導入先で準備する環境

項目	内容	備考
電話交換機	録音のFTP転送に対応するCrosCore Ver.7.0以上	主装置1式につきDigeYST 1台が標準。対象機種と構成は導入前に確認
設置場所	常時通電できる場所（サーバーラック、事務所内等）	静音設計ではありません
ネットワーク	1Gbpsの有線LAN。CrosCoreと同一ネットワークに置く構成が標準	別ネットワークの場合の通信条件は6.2項を参照
固定IP	DigeYST用の固定IPアドレス1つ	CrosCoreの録音転送先に使用
閲覧端末	Webブラウザーを利用できるPC・タブレット	専用アプリは不要

他社製の電話設備やDISCOVERYとの直接接続は標準対応の対象外です。DISCOVERY neo2とCrosCore3をOKIの専用線機能で接続する場合は、対象通話をCrosCoreに録音し、FTP転送から要約まで動作するかを導入前に個別に確認します。複数拠点で共通の主装置を使う場合は、各拠点の通話をその主装置で録音し転送できることをご確認ください。

3.2 提供物

項目	内容
専用機	セットアップ済みの状態で納品（第4章を参照）。サーバーの別途調達は不要
ソフトウェア	OS、DigeYST、AIモデルを出荷前に導入
ライセンス	機器に紐づけて発行。利用期間は契約条件による
マニュアル	利用者向けおよび管理者向け

3.3 現地作業

作業	内容
設置・配線	DigeYSTを設置し、電源・LANを接続
IPアドレス設定	固定IPアドレス、サブネットマスクを設定。必要に応じてゲートウェイと通信経路を確認
録音転送の設定	取込開始日とDigeYSTの受信準備を確認してから、CrosCoreの録音転送先を保存。発信者番号や電話帳を表示する場合はDigeYSTにCrosCoreの接続先を登録
動作確認	新規の試験通話で、転送、文字起こし・要約、画面表示と音声再生を確認

現地作業の範囲と所要時間は、既設の録音転送設定やネットワーク構成によって異なります。導入前に販売店へご確認ください。

4. 標準機器仕様

項目	仕様
CPU	Intel Core i5-14400F（10コア / 16スレッド）
メモリ	32GB
GPU	AMD Radeon RX 9060 XT（VRAM 16GB）
ストレージ	NVMe SSD 1TB
ネットワーク	1Gbps 有線LAN
OS	Ubuntu LTS
筐体	ミニタワー型デスクトップ
本体サイズ	約22（幅）× 47（奥行）× 40（高さ）cm

文字起こしと要約の処理にGPUを使用します。構成部品およびAIモデルは、供給状況に応じ、同等以上の性能を有するものへ変更する場合があります。

設置スペース

項目	必要な寸法
幅	30cm以上
奥行	60cm以上（本体47cmと背面の配線・排熱スペース）
高さ	45cm以上

奥行45cm前後のスチール棚や浅型ラックには設置できない場合があります。棚の奥行と耐荷重をご確認ください。

電源1口とLAN 1口が必要です。モニターとキーボードは設定時に使用します。

ストレージの空き容量

項目	参考値
搭載ストレージ	1TB（NVMe SSD）
出荷時の使用量	約50GB（OS・ソフトウェア・AIモデル一式）
通話データを保存できる空き容量	約840GB

通話データは1件あたり約1〜5MBが目安です。実際の使用量は録音時間や件数によって異なります。

処理時間の目安（通話終了から要約表示まで）

CrosCoreから録音が届くまでの時間、処理開始までの待ち時間、機器内での文字起こし・要約を含みます。CrosCoreの転送設定、処理待ち、通話の長さで所要時間は変わります。

通話の長さ	通話終了から要約表示までの目安（推定中央値）
1分以内	約1分
1〜3分	約1分15秒
3〜10分	約1分35秒
10分以上（最長約26分）	約2分45秒

2026年11月13日付の標準納品機のベンチマークに基づきます。実通話443件のうち、転送時刻の不整合や転送・処理待ちが10分を超えたケースを除く431件を集計し、通話時刻の記録単位を補正した推定中央値です。期間内の最長通話は約26分です。

参考として、標準納品機の機器内処理は、443件で中央値22秒、90パーセンタイル48秒でした。録音はDigeYSTへの登録順に1件ずつ処理します。

5. セキュリティおよびデータ管理

項目	内容
録音・文字起こし・要約	導入先のDigeYST内で処理・保管。外部サービス連携で送信する通話記録は2.4項を参照
インターネット接続	録音の取り込み、文字起こし・要約はインターネット接続なしで利用可能。外部サービス連携には連携先への通信が必要
アクセス制御	利用者ごとのログインと権限管理。一般利用者は割り当てられたメールボックスの記録を閲覧可能
操作履歴	対象となる操作について、利用者、日時、内容を監査ログに記録
バックアップ	設定時はUSB記録媒体に暗号化して保存。復号には専用の鍵が必要

6. 導入前確認事項

6.1 CrosCoreの録音機能

- 対象通話がCrosCoreのボイスメールに録音され、FTPで外部保存できることをご確認ください。同時録音の上限は、CrosCoreの機種、ボイスメールの構成および録音設定によります。
- 録音転送先を変更できる権限が必要です。既設の転送先がある場合は、設定変更前に販売店へご相談ください。
- 通常の導入では録音転送設定画面の「実行」ボタンを使用しません。押すとCrosCoreに残っている過去の録音が一括転送される場合があります。

6.2 ネットワーク構成

CrosCoreとDigeYSTを同じネットワークに置くのが標準です。閲覧端末が別ネットワークの場合は、許可された端末からDigeYSTのWeb画面へ接続できるようにします。CrosCoreとDigeYSTを別のVLANやサブネットに置く場合は、販売店とネットワーク管理者が通信経路とファイアウォールの設定を確認し、稼働前に実機で動作を確認してください。

通信方向	用途	接続先ポート
CrosCore → DigeYST	録音のFTP転送（PASV）	TCP 21とFTPサーバーのパッシブポート範囲（例：TCP 60000〜60100）
DigeYST → CrosCore	発信者番号・電話帳の照会を使う場合	CrosCoreのWeb管理画面のポート（通常はHTTPのTCP 80）
閲覧端末 → DigeYST	記録の閲覧・再生	納品時に案内するWeb画面のポート（例：HTTPのTCP 3000、HTTPSのTCP 443）

専用の閲覧PCを含めた独立ネットワーク構成もご相談いただけます。

6.3 電話帳と内線名称

- CrosCoreの内線名称と共通電話帳の登録状況をご確認ください。発信者番号と共通電話帳の登録番号が一致した場合は登録名を優先します。対応者の判定は2.2項を参照してください。
- 発信者番号を取得できないときは「電話番号」欄に「未取得」と表示します。通話相手として表示できる情報がないときは「(未取得)」と表示します。氏名の手掛かりがなければ個人名欄を表示しません。

6.4 設置場所

必要なスペースと電源・LANは4章を参照してください。常時通電でき、棚板に十分な耐荷重がある場所を確保してください。静音設計の機器ではないため、サーバーラックなどの機器設置場所に適しています。

7. 制限事項

7.1 音声認識

周囲の騒音、小さな音声、電話回線の音質により、認識精度が低下する場合があります。固有名詞や方言は、聞き違いや要約からの抜けが生じることがあります。話者は会話の文脈等から推定するため、短い通話や名乗りのない通話では取り違える場合があります。

7.2 AI要約

要約や氏名・対応者等の判定に誤りがある場合は、Web画面で修正できます。修正内容は通話記録と変更履歴に保存されます。個別のモデル学習は標準の導入作業に含まれません。長時間の通話は、内容の量によって文字起こしのみを表示する場合があります。

7.3 対応言語

標準の対応言語は日本語です。

7.4 処理対象とタイミング

標準の導入設定では、取込開始日を設定し、新規録音を処理します。録音の取り込み後に文字起こし・要約を行います。

8. 保守・運用

項目	内容
日常運用	CrosCoreから転送された録音を自動処理
DigeYSTの停止時	標準構成でCrosCoreと電話回線が正常なら電話とCrosCoreの録音は継続。 DigeYSTの取り込み、文字起こし・要約、画面利用は停止
バックアップ	設定した機器では通話記録のデータベースを毎晩、暗号化してUSB記録媒体に保存。録音ファイルは対象外
機器交換	利用できる直近のバックアップから通話記録を復元。処理再開には交換機用のライセンス設定が必要
ライセンス	機器に紐づけて発行。契約上の利用期間は通常2年間。先行導入枠等は個別の契約条件を適用。機器に設定される有効期限は契約時の案内を参照
ソフトウェア更新	必要な場合、担当者が検証済みの更新データをUSB記録媒体で持ち込み、適用。 対応可否、停止時間、費用は販売店へ確認

ライセンスの期限が切れると、新規の文字起こし・要約が停止します。録音の取り込みと保存済みの記録の閲覧は続きます。期限後に取り込んだ録音は処理待ちとなり、録音が残っていれば更新後に処理できます。音声と通話記録には2.5項の保存期間が適用されます。

本仕様書の内容は予告なく変更される場合があります。最新の仕様や保守条件は担当窓口へお問い合わせください。